

にっこり ひろば

新元号

「令和」にむかおう

私と俳句 〈手記〉 関 成美

昭和二十四年の春、私は津田山の通産省工業技術院に研修生として通っていた。院の業務は日本の工業、工芸の振興と先端技術の研究に携わり、総括、指導するところであった。

当時、工業技術院は業務の一環としてインダストリアル・デザイナー(工業意匠)の研究を目的に全国の工業指導所から選抜、派遣されてきた所員に一定期間専門知識を研修させる制度と講座を持つていた。私は研修生の一人であった。

早春のある日、院内の俳句同好会で句会があるからと誘いがあり、研修生の中から三、四名が参加したが、そこで披露された一句に私は大きな衝撃を受けたのである。それは、

凍雲やすがるに難き人過か 失名子

という句であった。当時私は二十四歳、多感といわれる年代にあった。『日本歌人』という短歌結社に属し、八石垣の間をこそと置出でて夕暮汐満つるころの嬌曳き などという甘ったるい作品を書いていたが、この句にあった日から、三十一音より遥かに少ない十七音でこんな世界が描けるのなら、いっそ短歌をやめて俳句を、と考えるようになった。

該句は、日頃ひそかに思いを寄せているが親しく口をきいたことが無い、そんな人とはつたり街中で出会ったのである。目礼しすれ違ったが、胸の高鳴りはまだ静まらぬ。凍てついて動かぬ寒々しい空の雲が今の私の心を象徴している、というふうな句意である。

私の短歌の師「前川佐美雄」は、『日本歌人』を主宰し、日本浪漫派に属し、現代短歌を代表し牽引する一人であった。作品は

ふと立ちて押入れあけてのぞきけりこの
暗室にぞ暮きけりけり

床の間に祭られてあるわが籠をうつつ
ならねば泣いて見ておし
どうしても駄目駄目と思う悲しさよ満
ほりになつても身は生きられる
何れも歌集植物祭所収の作品であるが、いまもその魅力にとりつかれている。

その後、俳句という最も短い詩形に強く引かれた私は俳句の道に師を求めた。人生は偶然に満ち、出会いが縁に生じたかと思っているが、あることで「大竹孤窓」という俳句作家を知り、家に訪ねて強引に押しかけ弟子となって入門を果たした。最初に目にした作品が私の心を捉えていたのである。

その中の淋しき花に佇みにけり
夜は白き佛の花に考くれぬ
秋夕べはほろけき人に灯ともしぬ
蛇穴に入りあかあかと日は落ちぬ
などの句である。

師が唱導していたのは「生活即俳道」であった。日々を真摯に生活することが俳句の道に合う、俳句は日々暮らしの中にあるとの教えで、それにも共鳴した。

急速に俳句にのめり込んでいった私は師の許しを得て俳句結社「多題」を立ち上げ、同志と呼びかけ共に研鑽することになる。それなりの消長はあったが、五十余年という長期に亘り続けてこられたのは仕合せであった。多くの人の有形無形の支援と協力によるものだ感謝している。師は、

は最も大切にしたい。「縁」は求めて得られるものではない。「袖振り合ふも他生の縁」は俳句に於いて特に濃い。現代のように人間関係が希薄になっている時には「縁」は格別大事なことと思う。所詮人は一人では生きられない。隣人が必要なのである。俳句を通して密接な友好関係を築いていくことも必要なことではないだろうか。現在市内に四つの句会があり、

それぞれ仲間を求めている。気楽に声をかけていただければありがたい。



今年もやります
栄二.自治会防災訓練

日時 令和元年6月23日(日)
9:00~14:00
(参加可能時間での参加可)

場所 南街地区自治会集会所

- ①チームリーダーによる安否確認訓練
- ②北多摩西武消防署による救命救急と応急処置訓練
- ③簡易トイレ・段ポールトイレの実用に向けて(展示等)
- ④炊き出し訓練(アルファ一化米とカレーライス)
- ⑤エコノミー症候群予防体操

地域防災、何が大事なのか?答えは...
備え有れば憂いなし
災害はどんな形でやって来るのか分かっていないつものなのに、「現実化しないことを望み、いざと云う時はなんとかするサ。」と安易に構えている。
いざと云う時のことを考えることに意義がある。
だから「みんなで考え行動してみよう。どうせなら、日常生活にも役立てられるような「訓練」を、体験することを目的に当自治会ははってみよう、試行錯誤で防災推進委員会は動いております。



四つ公園の砂場や植こみの前前に小さな窪みが沢山あります。中にはだんだん深くなってゆくものもあります。何だろうと思っていましたが、ある日小鳥がそこでパタパタしていました。砂遊びをしていたのです。そう、その窪みは小鳥のお風呂でした。公園で遊ぶ子供がころばないように平らにしても、次の日には「お風呂」が出ていました。公園は小鳥にとっても遊び場なのですね。砂遊びは鳥の体についた虫を落とす為にする行為です。公園でお風呂に入っている鳥を見つけても石を投げないで下さいね。 菊ちゃん

小さな命大切に..

これまで、天皇が変わることを祝い事と捉えることは無かったのでは...。年号が変わると言うことが、新年を迎える以上に祝い事になった感あり。明るい新時代を期待しましょう。数人の方にお気持を聞かせて頂きました。 m(_)_m

「令和」元年
昭和39年に九州で生を受け、昭和を約25年、平成を約30年過ごし55歳、東大和市で令和を迎えました。

- 振り返れば、昭和は「成長」の時代で、誕生から学び、就職。平成は、「熟成」の時代で、社会人として新人から中核、コアの立場に。家庭人としては、かけがえのないパートナーと一子を授かり、家族とともに社会人として切磋琢磨した結果、やっと親の有難みを理解して大人の仲間入りをした気分になり一子も無事巣立って行きました。
- 私の幼少時、周りに大正生まれの方はそこそこいらっやいましたが、明治生まれという記念物もでした。
- 令和の時代では、2世代前という意味では、私も記念物への仲間入りができたかと思えます(笑)
- 個人的には、令和の時代は、自身の集大成として、この世に生を受けた意味を考え、自身や家族の幸せを考慮しつつも、地域や社会貢献のバランスも視野にいれた行動ができれば幸いです。

川口光晴
P.S 自治会活性化に向けた、インターネットやメール、SNS等の活用ができればと思います。

風薫る一人暮らしを 甘んじて
昭和 平成 令和へと、時代は変わっても、何ひとつ変わらず、遅々として時を刻んで居ります。
でも、一応気持ちの張りだけはと、出来る限りの残る力で頑張ってます。
頂いてます。
諸々への出席は仲々通いませんが、宜しくお願致します。
追伸、
先日「近所様より笑顔を頂きました。心がほっこり笑顔って大事だと思えますが、仲々感情と結びつきません。

「人々が美しく心寄せ合う中で文化は花開く、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められ、九州(福岡)・大宰府の大臣旅人の邸宅で行われた梅花の宴で読まれた和歌の序文にある言葉が由来とのこと。

昭和20年代に誕生、25歳で結婚、2児を授かる。子供達、独立し孫も生まれ順風〜今日迄...とは言え、平成になり2回目の子育て(孫娘)が始まり、幼稚園、小、中、高校(大学受験生)と母親業を。私はこの娘といつまで一緒にいられるかな?と思ひながらも、この娘がお嫁に行くまでは欲を出しています。
今は夫と共に就活の片付けをガンバッ!!

バンビ (山内)
マリー(高橋)
菊ちゃん(佐藤)
ラグニャン(大月)

ロン(神谷)
マロン(水口)
マル子(泉)

令和という、輝かしい未来、光に向かって今月号は手記をお願いしました。ご協力ありがとうございます。「にっこり」それなりに手ごたえがあるのですが、もしかしたら不要だと思われる方も...と、発行にあたり意見様々、近いうちに会員の皆様方のご意見等を伺う必要があるのではないかの時期になったようです。その折にはご協力をお願い致します。
【編集責任 大月恵美子】

昭和、平成、令和と時代が変わって新元号。天災など何事もなく穏やかな時代となりますように。

今、振り返ってみると昭和、平成の時代はあっという間に過ぎてしまったと思われまふ。これからの令和の時代は一日一日をのんびりと元気で目標「令和10年迄何事もなくいけたら...」と思っています。
〈老人X〉

令和の意味どおり、梅の花のようにうるわしく平和な時代が来るといいですね!